ありたい姿

七国の人がゆるやかにつながれるまち 子ども、お年寄り、現役世代、外国人、障害者、大学生、LGBT

想い

既存の施設である学校等の活用を軸に、七国に住む子ども、お年寄り、現役世代、外国人、障害者、大学生、LGBT など多世代、多様な人たちがゆるやかにつながれるまちを目指したい

多様な人たちが集まり 交流する事により、 助け合い、支えあい 心のつながりが生まれる →自治会館の利用

> 学校の活動を 地域の活動に

周年行事に 卒業生も 参加する

地域協働グループ を作るよう地域に 働きかける

地域運営学校で あることをもっと アピールする 縦の つながり

> 地域での活動 発信、協力体制 (すぐ働ける) ただしどこが旗ふるか

小学校でのコミュニティの場 (10年後) それか自治会館でのコミュニティ (5年~10年) そこにボランティアを すぐにやれる

防災訓練を しっかりやる 校の防災訓練

学校の防災訓練に 地域住民がもっと 関わってもいいかも 子どもと 大人で 防災訓練

君田小学校の有効活用を 市に働きかける

> 「考える会」みたいな ものを発足させる

地域主体

★10年後20年後への実現を目指すため為には 今現在の高齢者の息子&娘(現在は40代前後) へ引き継いでいく事が、夢の実現へつながる

★次世代への引き継ぎの方法をどうするか?

「理想への暮らし」への発信方法

- ①メディアを利用?
- ②地域内での定期的な意識付けの為の回覧 又はアンケート等?
- ③若い世代はオンラインの活用で発信

スポーツ公園 競技場 +広い広場

> 主要道路以外を通る コミュニティバス 5~10年後

モノレール延伸 (20年?~) 駅付近ショッピングモール

高尾インターまでの道拡張 主要な場所での スーパーや道の駅等

みなみ野全体コミュニティの場

時間がかかる

行政主体

利便性のためのインフラ

バスの本数を 増やす

モノレール 延伸

人が集える ショッピング モール

安心・安全のためのインフラ

安心に通行で きる様、全て の道の街灯を 適切に設置

夜暗い場所 減らしたい

行動する

- ・農園ボランティア
- ・放課後見守りボラ ンティア(放課後子 ども教室とは別)

・子ども会

あいさつ等 声かけをする 小学校や中学校の 教育活動を支える 地域ボランティア グループの創設

行動が必要

連帯感が 生まれるような 何かを始める

見守り役

大学生が

教える

自然との共存

豊かな心

コミュニティのたまり場

自治会館の 適切な利用

地区での コミュニティ場 (子から老人 まで)

新しい コミュニティ の場所

街の中心に市民が 集えるコミュニティ センターを作る

(分館では七国の 住民の数に対して 十分な広さではない) 集まる場所

(子供達とお年寄り) 年代を超えた交流が

時間帯の活用

大学の多い 八王子としての 近隣の大学と 地域の交流

多世代交流

出来る場の提供

例) 小学校放課後の

子供が遊べる環境

玄関の前で ボール遊び 出来ない時代

ボールを自由 に使える場所

ひみつ基地

子供が のびのび

地元の小中学校を活用する

地域と 学校との 関わりを強く

学校の活用

住民が 学校に入る のは難しい